

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

- ア 設置の趣旨及び必要性
- イ 学部, 学科の特色
- ウ 学部, 学科等の名称及び学位の名称
- エ 教育課程の編成の考え方及び特色
- オ 教員組織の編成の考え方及び特色
- カ 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件
- キ 施設, 設備等の整備計画
- ク 入学者選抜の概要
- ケ 企業実習, 海外語学研修の計画
- コ 管理運営
- サ 自己点検・評価
- シ 情報の提供
- ス 教員の資質の維持向上の方策

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

浜松学院大学現代コミュニケーション学部現代コミュニケーション学科では、「幅広い視野と豊かな人間性を涵養し、かつ、現代社会で求められる基礎的なコミュニケーション能力の養成として、人間個人としても、企業等組織の一員としても、国際社会の一員としても、円滑にコミュニケーションを展開できるための基礎的な知識・能力を身に付けさせる。」ことを目標とし、現代に生きる人間のコミュニケーション能力の向上に努め、総合的コミュニケーション能力をもった人材の養成を教育目的としてきた。

新しく設置する地域共創学科では、そのコミュニケーション能力を基礎に、「共創」という課題について、教育・研究し、「共創」の実現を目指す学科である。

「共創」とは場を共有する人々が地域社会の課題などを創造的に解決していくものである。

地域共創学科では、このような共創的コミュニケーションを深く理解し、地域社会の要請に応える力量と知識・ノウハウを持つ人材を育成する。

大学の所在する浜松市は日本有数の産業集積地帯であり、楽器産業、自動車産業を中心に世界的な企業から中小企業まで多くの企業を擁している。(自動車産業を中心に経済状況は好調であると考えている。)また、その一方で浜松市はブラジル国籍者数が日本最多であり、多元化社会、多文化社会となっている。

このような地域社会の実情を踏まえ、その社会を共創する能力を養成するために、本学科では経営学、多文化、心理学を中心的学問分野として学ぶ。

地域社会に必要な人材を育成するために広い分野の教育・研究を行うことから、具体的な卒業後の進路については、地元企業の管理部門、起業家、公務員、NPO 法人職員、教員など様々な分野で活躍することを想定している。

イ 学部、学科の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性の特色の明確化」の中で挙げられている7つの大学の機能のうち、特に本学科では、地域社会に役立つ③幅広い職業人育成、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)の機能を、高等教育機関として重点的に担い、特色としていく計画である。

特に、地域社会との共創を目指す地域共創学科としては、「社会貢献機能」に重点を置いていく。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

設置の趣旨で挙げられているように新しく設置する地域共創学科では、現代社会に必要なコミュニ

ケーション能力を基礎に、「共創」という課題について、教育・研究し、「共創」の実現を目指す学科である。

「共創」とは場を共有する人々が地域社会の課題などを創造的に解決していくものであり、地域社会の人や企業や行政と共に大学が地域社会を一体となって創造していく、その中でさらに本学科で「共創」を教育・研究した学生が地域社会で貢献できる人材となっていくことを目指す学科であり、「地域共創学科」という学科名称とした。

なお、学位に付記する専攻分野の名称については、経営学、多文化、心理学を中心とした現代社会に必要なコミュニケーション能力を養う学科であり、「学士（現代コミュニケーション）」とする。

英訳名称については、学科名については、Department of Regional Co-Evolution とする。地域社会の中で共に創りあげるだけでなく、地域社会と共に進化していく学科であるという考えからである。また、学位については、Bachelor of Modern Communication Studies とする。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

設置の趣旨、学科の特色、人材育成を実現するために、本学では教育課程を以下のように編成する。

科目を大きく、基本教育科目と専門教育科目の二つの大きな科目区分に分ける。

基本教育科目は子どもコミュニケーション学科と共通とする。

基本教育科目は、「コミュニケーション・スキル」「基礎教養科目」「現代社会と地域の理解」の三つの科目区分とする。

「コミュニケーション・スキル」は現代社会に必要なコミュニケーションのためのスキル科目である。英語を始めとする外国語（特にブラジルなどの南米や中国の国籍者が多く居住する浜松地域という特性を考え、ポルトガル語、スペイン語、中国語）、まず、自国語を確かにする必要から日本語表現法を学び、コンピュータリテラシ、スポーツ科目を学ぶ。これらは、4年間の学習の基礎ともなる科目であることから1年次に配当する。

「基礎教養科目」は、広い分野の教養を学ぶことを目的としている。

「現代社会と地域の理解」は、教養であるとともに「自己や社会について考え、それらと対峙していく力を自ら養うこと」や「学ぶことへの目的意識を高めるとともに、社会の中で果たすべき役割・使命についての認識を持たせる」ことを目的としている。さらに特に地域社会の現状と課題を理解する科目である。

専門教育科目は、「専門・導入科目」「専門・基礎科目」「専門・基幹科目」「専門・展開科目」「専門・関連科目」の5つの科目区分とする。

「専門・導入科目」は、コミュニケーションの基礎を理解するための「コミュニケーション入門」、コミュニケーションするための自己と他者を理解するための「心理学概論」を配置し、1年次科目とし、全て必修とする。

「専門・基礎科目」は、地域社会の現状とその課題をいかに解決していくか、さらには地域共創の

理念を学ぶ「地域共創論」、それを具体的に演習として学んでいく「地域共創演習」とコミュニケーションを理論的に理解するための「メディア論」「コミュニケーション史」「日本の文化とコミュニケーション」を配置する。「地域共創論」を必修とし、「メディア論」「コミュニケーション史」「日本の文化とコミュニケーション」のうち1科目を選択必修とする。

「専門・基幹科目」は、地域共創学科の学問分野の三つの分野の基礎となる科目群を配置する。具体的には経営学分野の「経営学」「経営管理論」等、多文化分野の「多文化コミュニケーション基礎」「ことばと文化」等、心理学分野の「教育心理学」「発達心理学」等を配置し、全て2年次に配当する。10単位以上を選択必修とする。

「専門・展開科目」は、「専門・基幹科目」を受けて展開していく科目群である。学生の多様な問題関心及び卒業後の進路に応じて主体的に科目選択しうるようにする。経営学分野、多文化分野、心理学分野の三つの分野を中心に展開していくように配置している。配当は、2・3年次、3・4年次とする。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

設置の趣旨、特色、教育課程を踏まえ、導入・基礎科目や中心となる三つの分野のうち重要となる科目それぞれに専任教員を配置した。

まず、専門・導入科目には専任教員を一名配置した。また、専門・基礎科目のうち、必修科目に教授を配置し、その他の科目も全て専任教員を配置した。専門・基幹科目においても、経営学分野、多文化分野、心理学分野にそれぞれ専任教員を配置し、専門・展開科目においても科目の重要性と分野のバランスを考えて教員を配置している。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

地域共創学科では、学生の教育効果を高め初期の目的に沿う適切な教育を実施するために、以下の教育方法及び履修方法を実施する。

地域共創学科では、経営学分野、多文化分野、心理学分野の三つの分野を中心に学ぶことから、この三つの分野を学ぶゆるやかな専攻（コース）を設定する。学生はどの専攻に属するかは自由であるが、各50人程度を想定している。

卒業要件としては、合計124単位以上。基本教育科目で計34単位以上、専門教育科目で80単位以上、基本教育科目もしくは専門教育科目で10単位以上履修することである。

まず、基本教育科目で、必修18単位、選択必修としてコミュニケーション・スキルの「口語英語Ⅰ」「口語英語Ⅱ」「ポルトガル語Ⅰ」「ポルトガル語Ⅱ」「スペイン語Ⅰ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」から2単位、基礎教養科目から4単位以上、現代社会と地域の理解から6単位、選択として4単位以上、計34単位以上履修する。

専門教育科目からは、必修14単位、選択必修として専門機関科目の「メディア論」「コミュニケー

ション史」「日本の文化とコミュニケーション」から2単位以上、専門・基幹科目から10単位以上、選択として54単位以上、計80単位以上履修する。

さらに基本教育科目もしくは専門教育科目から10単位以上履修し、合計124単位以上履修する。

履修モデルとしては、経営学専攻、多文化専攻、心理学専攻という三つのコースに即したものを用意している。別紙 **(資料1)**

履修科目の登録上限については、現在の現代コミュニケーション学科のものを踏襲し、半期24単位とする。但し、GPAが3.0以上と成績が良好な者に対しては26単位の履修を認める。

浜松市を中心とした静岡県西部地区の大学が集まり、西部高等教育ネットワーク会議を構成し、共同授業を行っているが、その科目の履修について単位を認定していく予定である。

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場用地の整備計画

浜松学院大学には布橋と住吉という二つの校地が存在するが、地域共創学科においては、布橋校地において全ての授業を行う。

地域共創学科は、現代コミュニケーション学科を改組して、設置する学科であり、基本的に施設については同じものを使い、教育・研究を行っていく。現在、現代コミュニケーション学科のみで充分研究室、教室が充足しており、地域共創学科の教育課程を基に時間割 **(資料2)** を作成したが、施設設備については支障がないことが確認できた。

校舎敷地としては、布橋校地だけで15,816 m² (全体で28,063 m²) という十分な敷地があり、平成16年度の開学以来、よりよい教育環境を作るため学生の休憩施設(第2学生食堂、第2学生ホール、ベンチなど)など様々な整備を行ってきたところである。

(b) 校舎等施設の整備計画

運動場用地は17,181 m²あるが、若干校舎敷地より離れたところにある。移動については路線バスの経路(片道15分程)にあたっており、主として課外活動を中心に使っていく。

開学以来、よりよい教育のため、心理学実験室やマルチメディア教室の拡充などさまざまな整備を行ってきたところであるが、今後もより整備していきたい。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備については、現代コミュニケーション学科を改組して地域共創学科を設置していくことから、基本的に現代コミュニケーション学科で整備した図書等からさらに地域社会や共創に関する図書を整備していく。

現在図書は約112,274冊であるが、115,000冊程度に増加する予定である。学術雑誌としては現在227冊であるが230冊にする予定である。

図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンスルーム、検索端末については充分整備されている。

他の大学図書館との協力については、NACSISに加盟して相互の協力を努めている。また、静岡県

西部高等教育ネットワーク会議参加校の図書館相互に共通利用を図っており、今後も協力していくつもりである。

ク 入学者選抜の概要

設置の趣旨を踏まえ、本学ではコミュニケーション能力を持ち、もしくはその能力に関心があり、さらには地域社会を共に創造する意欲がある学生を受け入れたいと考えている。

(1) 入学者選抜は、別紙(資料3)のように、一般選抜、大学入試センター利用選抜、特別選抜(推薦入学)、特別選抜(特別入学)で行う。

一般選抜の入学者の選抜は、学力検査の成績及び調査書の内容を総合して行う。特別選抜(特別入学)には、「社会人入学」「外国人留学生入学」「AO入学」「AOスカラシップ入学」を設ける。

社会人や留学生を積極的に受け入れるために、「社会人入学」「外国人留学生入学」を設けるほか、特にこの地域に多い在留外国人の受入れのために「AOスカラシップ入学」に「多文化共生枠」を設ける。

(2) 科目等履修生、聴講生等について

本学では、現在、科目等履修生制度、市民聴講生制度を設けている。市民聴講生は科目を限定し、また単位が修得できない制度である。地域共創学科設置後も継続していく計画である。

ケ 企業実習、海外語学研修の計画

(1) 企業実習(インターシップ)について

専門教育科目の展開科目として「インターシップ」(2単位)を配置している。具体的には実習前に5回の講義を行い、企業実習を原則として1から3週間程度、実習後に3回の講義を行う。

インターシップの現状、実習先との連携体制、実習先の確保の状況、実習施設名、所在地、受入れ可能人数等は別紙(資料4)のとおりである。

成績評価体制及び単位認定方法については、実習前及び実習後の授業態度、発表内容、実習の状況、レポート、企業担当者の評価などを踏まえて総合的に評価する。

(2) 海外語学研修

専門教育科目の展開科目として「多文化体験実習」(2単位)を配置する。これは現在、現代コミュニケーション学科で行っている「異文化体験実習」を引き継いだものである。具体的には実習前に半期15回の講義を行い、語学研修に必要な海外の知識や外国語能力を養成して、実際の約一週間の語学・多文化体験実習に臨む。

実習先としては、主に英語文化圏で大学等の短期海外学習プログラムに参加することになる。

成績評価方法としては、授業の出席率、積極性、学習姿勢、レポートその他から総合的に評価する。

コ 管理運営

本学は現代コミュニケーション学部の一学部から成る大学であり、現代コミュニケーション学部教授会を組織し、教育・研究の基本方針、教育課程等の教学面における重要事項の審議に当たってお

り、教学事項については最高審議機関となっている。

当教授会は、学長、教授、准教授、専任講師、助教の専任教員31人で構成、学部長の招集のもと、原則月1回開催している。なお、事務部門を代表して、事務部長が必要に応じ構成員に加わっている。

最近における主な審議事項は、学生の学籍異動について、留学生の単位認定について、学部長の選挙、FD委員会規程について、地域共創学科の設置について、学則の改正について等であり、今後は、教員の任用、昇任について、入学試験の合格判定、卒業判定等が想定される。

また、教授会のもとに、教務、入試、広報、学生、教育方法・研究などの部、カリキュラム、FD、特色ある大学教育支援プログラム推進などの委員会を設け、それぞれ所掌事項の検討を行うとともに、これらの連絡調整機関として部長会議を置いている。

なお、本学は短期大学部を併設しており、学部及び短期大学部に関する事項を審議するため大学教授会を設置するほか、事務を管理する事務部を置いている。

サ 自己点検・評価

本学は平成16年度に開学し、平成19年度に完成年度を迎えた。

実施体制としては、自己点検・評価委員会を組織し、全学的な体制で実施している。自己点検・評価報告書については、平成21年3月に公表予定である。

公表方法としては、自己点検・評価報告書を刊行し、近隣大学及び企業等、その他希望がある公共団体に配布予定である。認証評価を受ける計画としては、平成22年度に（評価機関は日本高等教育評価機構を予定）評価を受けるべく、学内で検討中である。

シ 情報の提供

本学は、ホームページを通して、本学の理念、目的、カリキュラム、シラバス、学則、専任教員のプロフィール・研究成果・教育活動を公表している。

また、ホームページ上で浜松学院大学設置認可申請書、設置計画履行状況報告書、設置に係る留意事項実施状況報告書も公表している。

ス 教員の資質の維持向上の方策

本学では、現代コミュニケーション学科が平成19年度の設置計画履行状況調査で「ファカルティ・ディベロプメントへの取り組みが大幅に遅延しているため、学部長の指導の下、教員が協同して取り組み、組織的に速やかに実施すること」と、指摘があったこともあり、従来の教育方法・研究部中心のFD活動を改め、新たに学部長の主導の下、FD委員会を組織しさらなるFD活動の充実に努めている。

具体的には、授業評価アンケートの分析と改善のさらなる充実、授業交流の拡大、教育方法に関する研究会の開催などである。

地域共創学科においても、学部長の主導の下、FDに活動を進め、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究等の実施に努めていく。

具体的には、以下のものを考えている。

授業方法について研究会を行う。年2回の学生による授業評価アンケートを実施し、それを受けての組織的かつ個々の授業分析と授業改善への取り組み、学内ホームページへの公表。さらには、教員相互の授業参観についても、組織的に取り組む。また、新任教員のための研修会も行っていく。

地域共創学科においては、地域社会を共に創造するという学科の理念の下、大学の授業の内容及び方法の改善についても組織的に研修・研究に取り組んでいく。